

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

平成 31 年 3 月定例会

議席番号 5 番
高桑 佳子議員

1 シルバー人材センター設立について

当町では、NPO 法人ねっとわーくさぷらいをはじめ、日赤奉仕団や婦人会、老人クラブ、給食ボランティアなど、多くの有償無償のボランティア団体が活動しておられる。そのほとんどで、参加される人数の減少や後継者不足により、活動に支障があり、縮小・休止することもあると聞いている。町として、シルバー人材センターを立ち上げ、ボランティア活動をされる方々を支え、次世代につなげていくことが必要と考えるが、町長の考えを伺う。

2 児童クラブの運営について

児童クラブは働く子育て世代にとって、無くてはならない大切な日常の支援制度である。平成 31 年 4 月入学の新一年生の申込みも多く、早急に改善が必要な課題もある。次の 3 点について、町長の考えを伺う。

1. 場所について

現在のクラブ室は手狭で、小学校の空き教室を活用する案が検討されているとの事だが、どのような計画で進めているのか、外にも検討されているのか伺う。

2. 指導員の受け入れ体制について

子どもたちの日常活動のなかで、トラブルも起こるが、どう対応するかが重要である。指導員の指導力の向上も図らねばならない。また、個別対応をするケースが多ければ、人数も確保しなければならず、現状では足りないのではないか。活動場所が離れる場合などには「インカム」での情報伝達など、有効な手段をとる必要があるのではないか。今後の体制をどう考えているか伺う。

3. 担当課の関わりについて

子どもたちの育ちの変化は多様化しており、行政担当課の児童クラブの現状把握には温度差があるように感じる。実態に即した対応をとるためにも、徹底的な現状把握と分析が必要であるが、どう考えるか。

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

令和元年 9 月定例会

議席番号 9 番
高桑 佳子議員

1. 自主防災の進め方について

7月の全員協議会において、町長から、自主防災について各集落内で中継避難所となりうる家屋を確認し、地域で行動することを考えていくという答弁があった。自助・共助の意識を高めていくことが、重要になると考えるが、その具体的施策と時期について伺う。

（1）地域住民の自助・共助を進めるためには、その土台として仲間意識の醸成や防災に対する意識を高める事が重要と思う。その方策はどう考えているか。

（2）各集落の家屋の確認、依頼などはどのように進めるか。

（3）女性の消防団入団があると聞く。女性団員を受け入れるにあたって、活躍できる場をどのように位置づけ、周知していくか。また、今後、女性団員を増やすためにどう広報するか。

2. 子育て支援や教育現場における人材の充実について

学校の夏季休暇中、公的な子どもたちの居場所としての児童クラブや町民プール等では、見守る側の人材を確保するのが、大変厳しかったと聞いている。

（1）長期休暇中に限らず、人材を確保する対策が今後出てくるのではないか。近隣の長岡市等と連携することは考えられないか。

（2）子どもたちの一番近くで接することの多い、介助員や子育て支援サポーターについて、更なる質の向上を図るための研修等はどのように行われているか。

（3）児童クラブも町民プールも安全第一であり、見守りは充実させる必要がある。大勢の子どもたちが利用する時期の対策として、町内出身の学生等に協力を呼びかけてはどうか。